

総合病院国保旭中央病院で診療を受けられる患者さんへ

総合病院国保旭中央病院では、以下の研究を実施しております。

研究の対象になる可能性がある患者さんで、診療情報が研究目的で利用されることを望まれない方は、下記のお問い合わせ先にご連絡下さい。

1. 研究課題名

腹式単純子宮全摘術パスにおけるバリエーション入力の実状と今後の課題

2. 研究の対象患者

腹式単純子宮全摘術パスを使用した患者さん

3. 研究の対象期間

2017年2月1日～2018年3月31日

4. 研究の概要

A病院女性外科病棟におけるクリニカルパス(以下、パス)の使用数は、1,060件(2016年度)であった。婦人科系の手術パスは、腹式単純子宮全摘術パスが一番多く、年間93例使用している。

2017年度、在院日数の短縮に向けてパスの見直しを行うことになった。そこで、腹式単純子宮全摘術パスのバリエーションを院内の情報システムで抽出したところ、結果は18件であった。念のため、手作業で収集すると、正のバリエーションだけでも60件を超える入力漏れがあった。

パスを見直していく上で、バリエーション分析が質改善の鍵となる。バリエーションを拾い上げることで、どのような患者に特別なタスクが行われたのかわかり、収集・分析することで治療上の改善点や工夫すべき点が見えてくる。

また、バリエーション入力を行うことの意義を示し、習慣化することで提供する医療と患者アウトカムとの関係が明確となる。さらに、その結果をパスに盛り込むことでパスにおけるPDCAサイクルを回して患者に行った特別なタスクを振り返り、現状を把握することで実状に合わせたパスのアウトカムの見直しが可能となる。これによって、患者に過不足のないケアが提供できる。

しかし、病棟の現状からはバリエーション入力がされておらず、パスを見直すために必要なデータを得ることができなかった。そこで、本研究では病棟看護師がなぜバリエーション入力ができないのかを検討する。

5. 研究実施予定期間

2018年7月18日～2018年10月31日

6. 研究に用いる試料・情報の種類

バリエーション記録：事象、要因、発生日時、発生場所、対応内容、数量

その他のパス情報：アウトカム評価、パス評価

患者背景：生年月日、年齢、性別、既往歴、合併症

検査：RBC、Hb、WBC、BS、HbA1c、LDL、HDL、T-CHO

退院情報：転帰、退院先、入院日数

その他：DPCデータ

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保証に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出下さい。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

(連絡先) 地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院

・研究責任者：5階西病棟 高貴 春香

・臨床研究支援センター

電話：0479-63-8111(代)